

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間:2023/11/01 ~2023/12/4)

(勉強面)

1. 授業

11月から12月初旬にかけて test2 と final exam が行われました。1回目のテストでは問題形式が全く分からない上に、全て英語で出題されることが障壁でした。その結果を踏まえて、担当の先生に相談したところ、test2 や final exam の前には担当の先生が手厚いサポートをしてくださり、マンツーマンの指導をしてくださいました。また、同じ授業を受講していた友達に過去問をもらうことができ、なんとかテストを乗り切ることができました。UTP のカリキュラムとして全部で14週あり、1~11週目までは授業が行われ、12週目は final exam に向けたテスト勉強期間、そして13,14週目に final exam が行われます。

テスト当日は、右の写真のような exam slip (写真22) という受験票を印刷し、試験会場に携帯が必須でした。また、試験会場の入口では金属探知機のようなもので厳重に検査をされました。筆箱の持ち込みは禁止で中身だけ持ち込みが可能でした。試験時間は3時間あり、大きなホールでいくつかのコースと一緒に試験を受けました。



The image shows a sample exam slip from the University of Technology, Petaling Jaya (UTP). It includes the university logo, name, and address. The student's name is Inai Ayumi. The slip lists her personal details: Passport No., Gender (Female), Nationality (Japan), Sponsor (SELF), and Exam ID. It also specifies the Programme (Exchange - Inbound Undergraduate (Exchange Programme)) and Semester (2023 - SEPTEMBER). A table lists the courses: CE04223 (Industrial Effluent Engineering, 3.00 credits) and FEM2063 (Data Analytics, 3.00 credits), with a total of 6.00 credits. Below the table, there are 'Please Take Note' instructions regarding medical certificates and attendance during the examination weeks.

Course Code	Course Description	Credit Hours
CE04223	Industrial Effluent Engineering	3.00
FEM2063	Data Analytics	3.00
Total Credits		6.00

写真22 exam slip

2. 言語スキルの向上

最近授業内容が聞き取れるようになって来ました。授業の先生によって、中国系、インド系、マレー系の3つのなまりの英語があります。一番聞き取りやすいのは、中国系の英語です。また、聞き取りにくいのがインド系の英語です。また、ヒンディー語を母国語とするインド人が話す英語は「ヒングリッシュ」と呼ばれているようです。ヒングリッシュは巻き舌が多く使われるのでとてもクセの強い英語の発音を

しています。したがって、先生によって授業の理解度が変わります。現地の生徒は自分のルーツの言葉と公用語のマレー語と英語を話すのすごいなと感心させられるばかりです。

3. 崇城大学の学生が UTP を訪問

崇城大学ナノサイエンス学科の学生が UTP を訪問しにきました（写真 23）。共同研究をしている私がいつも通っている研究室について紹介されました。久々に日本人の学生に会えてとても嬉しかったです。



写真 23 ナノサイエンス学科の学生

一緒にランチを食べ、施設の紹介や研究内容の紹介を聞きました。普段は入ることのない施設にも入ることができ、とても良い経験になりました。

（生活面）

イベント

11/11・12 に両親がマレーシアのクアラルンプールに遊びに来ました。両親と一緒にクアラルンプールを観光しました。また、この日は Diwali という祝日で、夜には至る所で花火が上がっていました。Diwali はインドのお正月で 5 日間にわたり、祈りを捧げ、ご馳走を食べ、花火を楽しみ、家族で集まってさまざまな善業を積む。Diwali は「光の祭典」として広く知られている。Diwali の語源はサンスクリット語で「光の列」を意味するディーパーバリ（depavaili）に由来する。祭りの間、火を灯した素焼きのランプを人々が家の外に並べる光景が有名だそう。しかし、旅行中は並んだランプを見ることはできませんでした。他にも、Diwali を祝って、いろいろなものが割引されていたのでショッピングでは得した気持ちになりました。両親も日本で買うよりも安いからといって、様々なものを購入していました。

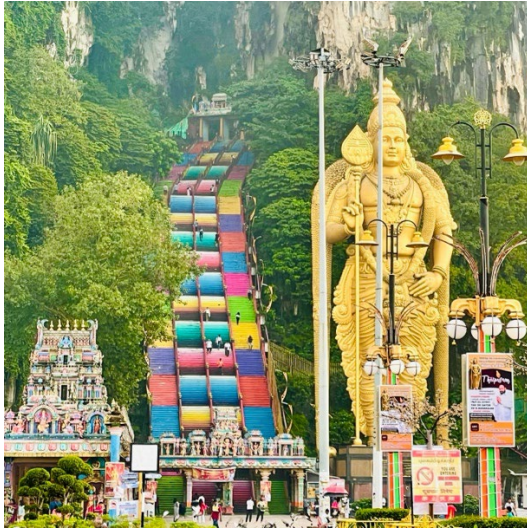


写真 24 バトゥ洞窟

左の写真は、観光名所のバトゥ洞窟（写真 24）です。バトゥ洞窟は、ヒンドゥー教にまつわる洞窟です。入り口には、高さ 43m もの黄金の神像、ヒンドゥー教の神様「ムルガン」が立っていました。身体には、300 リットル以上もの金が使われていると言われています。その大きさと重厚感は圧巻でした。その後、272 段もの階段があり、カラフルに塗られていて、写真スポットになっていました。階段は少しきつかったです。

先に進むと、中は鍾乳洞になっていました（写真 25）。中はひんやりしていて、神秘的な空間でした。その先に関して、この寺院はヒンドゥー教の聖地のため、女性が足を出すことが禁止されており、長ズボンを履くことが必要な条件になっていました。マレーシアのモスクや寺院では基本的にショートパンツは NG なので長ズボンが必須です。



写真 25 バトゥ洞窟の鍾乳洞